

荒川流域一斉水質調査マップ2022



調査日 2022年6月5日(日)

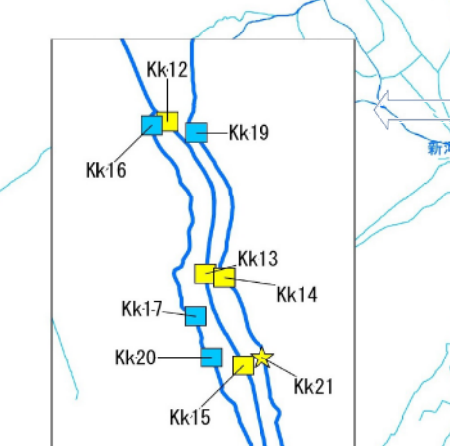
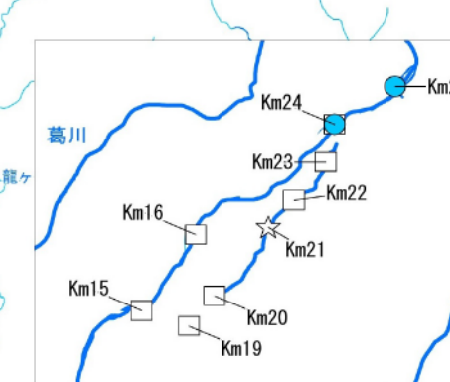
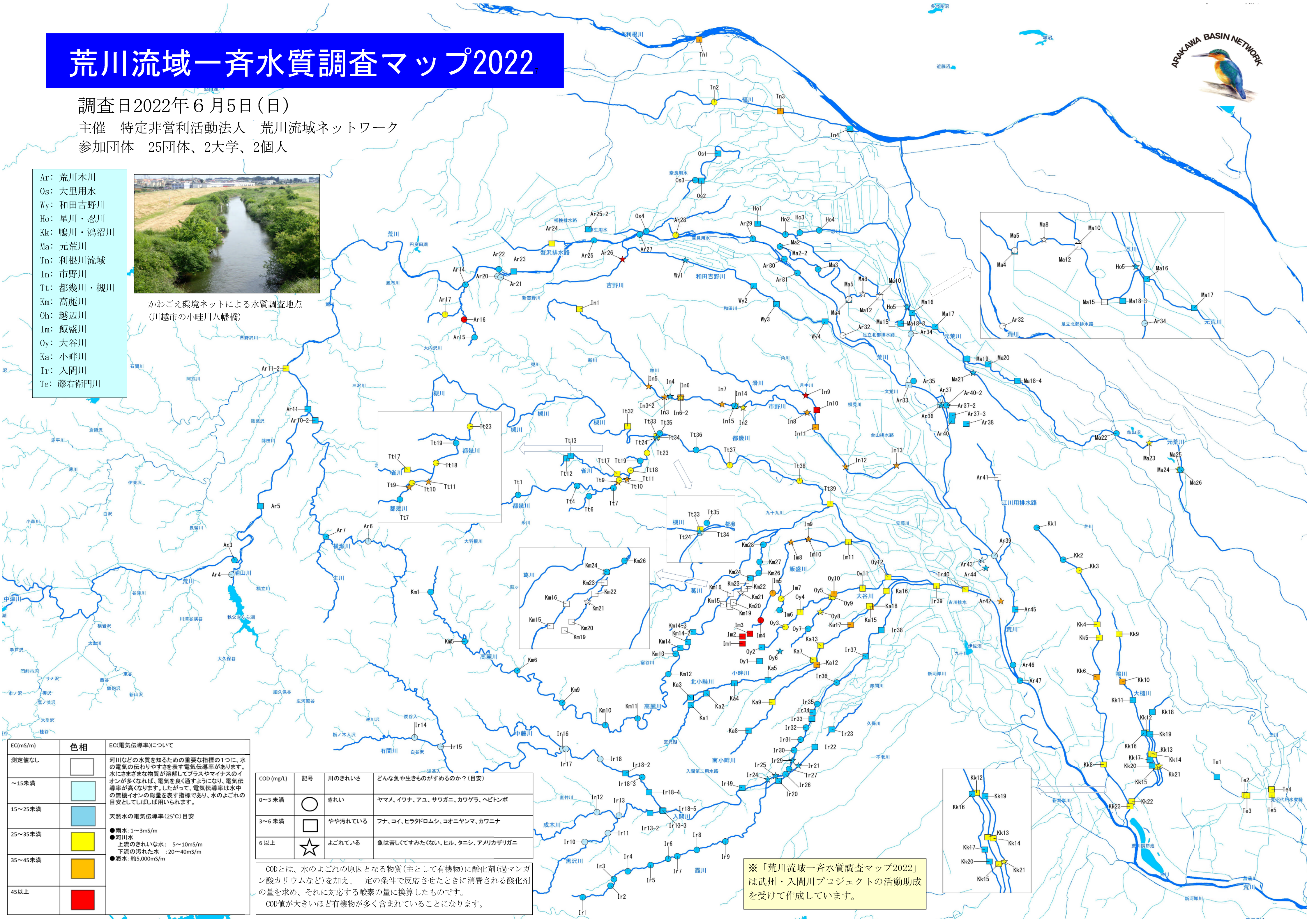
主催 特定非営利活動法人 荒川流域ネットワーク

参加団体 25団体、2大学、2個人

- Ar: 荒川本川
- Os: 大里用水
- Wy: 和田吉野川
- Ho: 星川・忍川
- Kk: 鴨川・鴻沼川
- Ma: 元荒川
- Tn: 利根川流域
- In: 市野川
- Tt: 都幾川・槻川
- Km: 高麗川
- Oh: 越辺川
- Im: 飯盛川
- Oy: 大谷川
- Ka: 小畔川
- Ir: 入間川
- Te: 藤右衛門川



かわごえ環境ネットによる水質調査地点
(川越市の小畦川八幡橋)



EC(mS/m)	色相	EC(電気伝導率)について
測定値なし		河川などの水質を知るための重要な指標の1つに、水の電気の伝わりやすさを表す電気伝導率があります。水にさまざまな物質が溶解してプラスやマイナスのイオンが多くなれば、電気を良く通すようになり、電気伝導率が高くなります。したがって、電気伝導率は水中の無機イオンの総量を表す指標であり、水のおよごれの目安としてしばしば用いられます。
~15未満		天然水の電気伝導率(25℃)目安 ●雨水: 1~3mS/m ●河川水 上流のきれいな水: 5~10mS/m 下流の汚れた水: 20~40mS/m ●海水: 約5,000mS/m
15~25未満		
25~35未満		
35~45未満		
45以上		

COD (mg/L)	記号	川のきれいさ	どんな魚や生きものがすめるのか? (目安)
0~3未満		きれい	ヤマメ、イワナ、アユ、サワガニ、カワゲラ、ヘビトンボ
3~6未満		やや汚れている	フナ、コイ、ヒラタドロムシ、コオニヤンマ、カワニナ
6以上		よごれている	魚は苦しくすみたくない、ヒル、タニシ、アメリカザリガニ

CODとは、水のおよごれの原因となる物質(主として有機物)に酸化剤(過マンガン酸カリウムなど)を加え、一定の条件で反応させたときに消費される酸化剤の量を求め、それに対応する酸素の量に換算したものです。
COD値が大きければ有機物が多く含まれていることになります。

※「荒川流域一斉水質調査マップ2022」は武州・入間川プロジェクトの活動助成を受けて作成しています。